

令和8年度

シラバス



1 学 年

北海道おといねっふ美術工芸高等学校

教 育 課 程 表

令和8年度 学年別教育課程表

教 科	科 目	標 準 単 位 数	1年	2年		3年		
			共通	工芸	美術	工芸	美術	
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現 代 の 国 語	2	2				
		言 語 文 化	2	2				
		論 理 国 語	4		3	3	2	2
	地 理 歴 史	地 理 総 合	2		2	2		
		歴 史 総 合	2				2	2
	公 民	公 共	2	2				
	数 学	数 学 I	3	3				
		数 学 A	2		2	2		
		数 学 C	2				2	2
	理 科	化 学 基 礎	2				2	2
		生 物 基 礎	2		2	2		
		地 学 基 礎	2				2	2
	保 健 体 育	体 育	7～8	2	2	2	3	3
		保 健	2	1	1	1		
	芸 術	美 術 I	2	2				
美 術 II		2		2	2			
外 国 語	英 語 コミュニケーション I	3	3					
	英 語 コミュニケーション II	4		3	3	3	3	
家 庭	家 庭 基 礎	2		2	2			
情 報	情 報 I	2	2					
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	工 業	工 業 技 術 基 礎	2～4	4				
	美 術	美 術 概 論	2～4			2		
		素 描	2～6				2	2
		絵 画	2～4			4		
	芸 術	美 術 研 究	4					4
		図 法 ・ 製 図	I	2	2			
			II	2		2		
		木 工 制 作	I	4	4			
			II	4		4	4	
		工 芸 制 作	4		4			
課 題 研 究	6				4	4		
工 芸 研 究	4				4			
小 計			29	29	29	26	26	
総 合 的 な 探 究			0	0	0	3	3	
ホ ム ル ー ム 活 動			1	1	1	1	1	
合 計			30	30	30	30	30	

教科名	国語		科目名	現代の国語	学年	1学年
教材	教科書	現代の国語（大修館書店）			単位数	2
	副教材	①意味と書き分けがわかる漢字Lab3500頻出語（浜島書店） ②現代の国語学習課題ノート（大修館書店） ③新版七訂新訂総合国語便覧（第一学習社）			履修区分	共通
学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。					
	2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。					
	3 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めることができる。					
学習の進め方	1 教科書をベースに、文章の論理構造を適切にとらえる練習をします。					
	2 表やグラフから得られる情報を正しく読み取り、自分の考えを表現する力を高めます。					
	3 ノートや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション	・授業の進め方、学習の方法について ・入学前課題の解答と復習	
	5	○アセスメント	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、 学びに向かう姿勢をつくる ・叙述を的確にとらえる。 ・具体と抽象を理解し、文章の要点を的確に まとめる。	単元テスト ノート提出
		○言葉を学ぶ／言葉のなかに生まれる		
	6	○主張をとらえる／水の東西	・話し言葉の特徴を知る。 ・聞き手が理解できる説明を考え、過不足なく伝える。 ・相手に正確に伝わるようにわかりやすく書く。	
		「動」への変化 ○的確に伝える／伝わりように話す		
	7	わかりやすく書く	・構成や展開を意識して文章を書く。 ・根拠を明確にして、自分の意見を書く。	
		○意見を示す／意見を書く		
	8	○論理をとらえる／ 動的平衡としての生物多様性	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目し、文章の論理をとらえる。	
		○効果的に伝える／工夫して話す		
9	興味を引く紹介文を書く	・相手の興味を引くように、構成や展開を 工夫して話す。 ・読み手が共感できるように、表現を工夫して 書く。	[期末考查] ノート提出	
前期 目標				
後	10	○資料を解釈する／ 「安くておいしい国」の限界	・資料と文章の関係に注意して、情報を 読み取る。	単元テスト ノート提出
	11	○他者と交流する／ 気持ちを伝える通信文を書く	・通信文の基本的なルールを知る。 ・相手や場面に応じた通信文を書く。	
		○文章を比較する／ 「美しさの発見」について		
	12	○他者を動かす／ 説得力のある資料をつくる	・複数の文章を比較し、共通点や相違点を とらえる。 ・提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 ・効果的な表現や資料提示のしかたを工夫する。 ・聞き手の心を動かす話し方を工夫する。 ・資料にもとづいて、効果的に発表する。	
		資料を用いて発表する		
	1	○情報を吟味する／贅沢を取り戻す	・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や 信頼性を吟味する。	
2	○情報を吟味する／ 展開をとらえて討論をする	・討論の流れとそれぞれの役割を理解する。 ・考えが伝わりよう、論理に注意して発言する。 ・話し手の論理展開や表現をとらえ評価する。		
3				
後期 目標				

評価方法	・定期考查・単元テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度 等で評価します。 ・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。		
評価の 観点	【知識・技能】	文章の論理構造を正確に理解し、読み解くことが出来ている。	30%
	【思・判・表】	自分の考えを論理的に構築し、文章に表すことができる。	50%
	【主体的態度】	積極的な態度で言語活動に参加し、語彙力の向上に努めている。	20%

教科名	国語		科目名	言語文化	学年	1学年
教材	教科書	言語文化（大修館書店）		単位数	2	
	副教材	①意味と書き分けがわかる漢字Lab3500頻出語（浜島書店） ②言語文化学習課題ノート（大修館書店） ③新版七訂新訂総合国語便覧（第一学習社）		履修区分	共通	
学習の目標	1 教科書をベースに、文章を適切にとらえる練習をします。					
	2 言語事項に関する知識、理解を深めます。					
	3 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めることができる。					
学習の進め方	1 小説・随筆・短歌・詩など多様な文章を読み、自身の考えを深めます。					
	2 古典（古文・漢文）を読んで独特のリズムを味わい、古人の考え方を学びます。					
	3 ノートや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション	・授業の進め方、学習の方法について ・入学前課題の解答と復習	
	5	○アセスメント		
		○言語文化への視点／ 文字が見せてくれる唯一無二の瞬間	・文字のもつ力やはたらきについて理解を深める。	
	6	○古文に親しむ／宇治拾遺物語	・古文の文体や仮名遣いに慣れる。 ・作者の伝えたいことをとらえる。	
		○漢文に親しむ／1～5	・漢文訓読のきまりを理解し、口調やリズムに親しむ。	単元テスト ノート提出
	7	○言葉の紡ぐ世界／羅生門	・場面ごとの人物の心情の変化を読み取る。	
		○現代に生きる言葉／蛇足、完璧	・展開をとらえ、作者が話に込めた意図を読み取る。	
	8	○日常へのまなざし／徒然草、枕草子	・自然の情景に対する作者の感覚をとらえる。	
		○表現の多様性／夢十夜	・作品の表現に着目しながら読む。	
9	○想いを表す言葉／万葉集、 古今和歌集、新古今和歌集	・自分の感じたことを言葉にする。 ・和歌の印象的な部分について考える。	[期末考查] ノート提出	
前期目標				
後	10	○人との交わり／伊勢物語	・内容を読み取り、登場人物の関係を理解する ・和歌の修辞技法と、その効果を理解する。	
	11	○日本と世界／サーカス	・日本語と外国語の特徴をとらえる。 ・翻訳の工夫を理解する。	
	12	○旅と人生／土佐日記、更級日記	・旅にでるまでのならわしについて知る。 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。	単元テスト ノート提出
		○想いを表す言葉／静夜思、山行	・漢詩の形式や詩の表現の特徴を理解する。	
	1	○文学と人生／城の崎にて	・主人公の心情の変化を、動物や自然との関わりから理解する。	
		○人生の指針／論語	・思想と現代との関わりについて考えを深める。	
	2	○語り継がれる歴史／平家物語	・『平家物語』に特徴的な文体のリズムを味わう。 ・文体や表現によって、読者が受ける印象の違いをとらえる。	[学年末考查] ノート提出
	3	○表現の多様性／良識派	・寓話的な作品を読み、風刺や象徴性をとらえる。	
		○文学と社会／雑説	・唐代の文章を音読し漢文独特の口調に習熟する	
後期目標				

評価方法	・定期考查・単元テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	30%
	【思・判・表】	伝え合う力を高め、思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	50%
	【主体的態度】	言葉への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	20%

教科名	公民	科目名	公共	学年	1 学年
教材	教科書	改訂版 高等学校 私たちの公共		単位数	2
	副教材	改訂版 私たちの公共 ワークノート		履修区分	共通
学習の目標	1 人間と社会についての見方・考え方を働かせる。				
	2 現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を行う。				
	3 広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
学習の進め方	1 教科書を中心に前期は青年期・思想・政治分野、後期は経済分野、国際分野について学びます。学年末にはこれまでの学習を基にレポート作成を行います。				
	2 講義、資料の読み（統計データ、新聞、原典資料、芸術作品等）、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬活動、レポート作成などを授業内で行います。				
	3 単元テスト・定期考査を通し、学習した内容の理解を深めます。				

期月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	○オリエンテーション ○「公共」とはなんだろう	・私たちと青年期 ※考査、単元テスト 毎にファイル・ワークを提出。
	5		・みんなが幸せな社会とは？ ・ルールや法は何のため ・単元テスト
	6	○現代社会のしくみと課題 法・政治	・私たちの社会と憲法 ・民主主義と立憲主義 ・自由権・平等権・社会権 ・ファイル提出
	7		・私たちの生活と政治
	8		・国会、内閣、裁判書、地方自治、選挙 ・平和主義と日本
	9	経済	・私たちの生活と経済 ・市場経済のしくみ ・期末考査 ・ファイル提出
前期目標			
後	10		・金融機関の役割 ・税と日本の財政の課題 ・職業選択、労働、社会保障
	11	国際政治・経済と日本	・国際社会と国際法 ・国際連合と国際機関 ・軍縮と平和 ・単元テスト ・ファイル提出
	12		・貿易・外国為替 ・発展途上国・地域経済統合 ・レポート課題
	1	○私たちが創る持続可能な社会	・テーマ選び、レポート作成
	2		・レポートの発表 ・学年末考査 ・ファイル提出
	3		・レポート課題
後期目標			

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・小テストの成績、ワーク・ファイル・レポートの提出状況、授業への関心・意欲・態度、グループワークへの取り組み等で総合的に評価します。 公民科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。 		
評価の観点	知識・技能	現代の諸課題をとらえ、考察するための概念や理論を理解しているとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめているか。(テスト・レポート・提出物の内容等)	40%
	思考・判断・表現	社会の諸問題に対して事実を基に概念などを活用して、多面的・多角的な視点から考察・判断ができ、表現ができているか(テスト・レポート・提出物の内容等)	30%
	主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしているか。(テスト・提出物やレポートの内容等)	30%

教科名	数学		科目名	数学 I	学年	1 学年
教材	教科書	改訂版 最新 高校の数学I (数研出版)			単位数	3
	副教材	改訂版 基本と演習テーマ 数学I+A (数研出版)			履修区分	共通
学習の目標	1 数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識と技能の習得を目指す。					
	2 事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できることとそれらを活用する態度を育てる。					
	3 数学を通して学習習慣を確立し、積極的に自己調整をする姿勢を養う。					
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、2次方程式まで学ぶ。					
	2 後期は教科書の内容を中心に、データの分析まで学ぶ。					
	3 適宜課題を出し、学習習慣を確立しつつ理解を深める。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○中学までの復習 1章：数と式	・新入生課題の解説、確認 ・多項式、多項式の加法・減法・乗法	スタサポアセスメント
	5		・実数 ・1次不等式	
	6	2章：集合と命題	・集合、命題	
	7	3章：2次関数	・2次関数とそのグラフ、最大・最小	
	8		・2次関数の決定	
	9		・2次方程式	・期末考査
前期目標				
後	10		・2次不等式	スタサポアセスメント
	11	4章：図形と計量	・三角比 ・三角比の相互関係	
	12		・三角比の拡張	
	1		・正弦定理・余弦定理	
	2	5章：データの分析	・データの整理、代表値、箱ひげ図 ・データの散らばり、分散と標準偏差 ・データの相関、相関係数	・学年末考査
	3	課題学習	・仮説検定 ・身近な課題について調べ、分析する	
後期目標				

評価方法	・定期考査、単元テスト、日常の授業への参加態度等で評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	積極的に学習し、自己調整をすることが出来ているか。	40 %
	【思考力・判断力・表現力】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。	20 %
	【主体的に学習に取り組む態度】	日常のモデルを数式に置き換え課題解決ができ、それをまとめることができるか。	40 %

教科名	保健体育		科目名	体育	学年	1 学年
教材	教科書	現代高等保健体育			単位数	2
	副教材	ステップアップ高校スポーツ			履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして運動の楽しさや喜びを味わい、技術向上を目指す。					
	2 課題を発見し、解決に向けて考えたり判断したことを他者に伝える力を養う。					
	3 公正に取り組み、互いに協力しながら健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。					
学習の進め方	1 基礎・基本による技能定着、技能テストを通して表現したり、課題解決能力を身につけます。					
	2 一斉授業や班活動による集団学習を通して参画、公正、協力、責任の態度を養います。					
	3 学習した内容をワークシート等で振り返り、理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	○オリエンテーション ○新体力テスト ○体づくり運動	・自己の体力に気付き、向上させていく。 ・体力トレーニングについて	・新体力テスト実施	
	5	○新体力テスト ○体育理論 → 安全の確保について ○器械運動	・手軽な運動、実生活に生かす運動 ・マット運動の基本技能の習得 (能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる)	・技能テスト実施	
	6	○体づくり運動 ○ダンス→体育理論 ○新体力テスト	・フォークダンス、創作ダンス ・文化的特徴や発展について		
	7	○ダンス ○ニュースポーツ ○体づくり運動	・現代的なリズムのダンス ・モルック		
	8	○ダンス ○ニュースポーツ ○体づくり運動	・現代的なリズムのダンス ・ボッチャ		
	9	○ダンス(発表会) ○体育理論	○生涯スポーツについて	・ダンス発表会	
	前期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の段階的な指導を行い、運動の合理化や課題解決能力を身につける。 ・仲間と協力して行うことや表現することを目指す。 ・健康・安全に留意させ、自己防衛力や危機管理能力を向上させる。 			
	後	10	○球技	・ミニバレーボール・バレーボール(ネット型) (ルール理解、個人技能の習得を目座す)	・技能テスト実施
		11	○球技	・バスケットボール(ゴール型) (ルール理解、個人技能の習得を目指す)	・技能テスト実施
12		○球技 ○体育理論	・バスケットボール、バレーボール(選択) ・生涯スポーツの見方・考え方(体育祭)		
1		○体育理論	・ウインタースポーツ		
2		○スキー	・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。		
3		○選択球技 ○体育理論	・バドミントン、卓球の選択(ネット型) ・ライフスタイルに応じたスポーツ		
後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や他者の意見を伝えたり理解し、課題解決を目指す。 ・体力の構成要素である行動力と生存力の保持増進を目指す。 ・次年度に向け、応用的な運動領域に触れ、継続的な技能の向上を目指す。 				
評価方法	・技能テストだけでなく、授業に取り組む姿勢や、公正、協力、責任などの態度、ワークシートの提出状況等を総合的に評価します。				
評価の観点	【知識・技能】	・運動の合理的、計画的な実践を通して技術だけでなくルール等を身につけているか。		40%	
	【思・判・表】	・課題を発見し、解決の仕方や気付いたことについて自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりしているか。		40%	
	【主体的態度】	・公正に取り組み、仲間と協力したり、関わろうとしているか。		20%	

教科名	保健体育		科目名	保健		学年	1 学年
教材	教科書	現代高等保健体育				単位数	1
	副教材	なし				履修区分	共通
学習の目標	1 個人や社会生活における健康・安全について理解を深めます。						
	2 健康について自他や社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断すること力を養う。						
	3 生涯を通じて自他の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。						
学習の進め方	1 個人や社会生活における様々な課題を通して、解決する方法などについて学ぶ。						
	2 グループワークを通して自他の考えを共有して、他者に伝える力を身につけます。						
	3 健康・安全について単元テストやワークシートを用いて理解を深めます。						

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション ○応急手当の意義とその基本 ○日常的な応急手当	・ 応急手当の意義と手順 ・ けがや熱中症の応急手当	・ 単元テスト
	5	○心肺蘇生法	・ 心肺蘇生法	・ 実演 ・ 単元テスト
	6	○健康の考え方と成り立ち ○私たちの健康のすがた ○生活習慣病の予防と回復	・ 健康とその成り立ち ・ 健康と意志決定、行動選択の関わり ・ 生活習慣病の予防法、回復	・ 単元テスト
	7	○がんの原因と予防 ○がん治療と回復	・ がんの原因、予防法 ・ がんの治療、アフターケア	
	8	○運動と食事 ○休養・睡眠と健康	・ 運動の意義、運動習慣の形成 ・ よりよい休養と睡眠	・ 前期期末考查 ・ 単元テスト
	9	○喫煙と健康	・ 喫煙の健康被害と対策	
前期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの健康を考え、実生活で活かすことを目指す。 ・ 自分の意見や他者の意見を伝えたり理解し、課題解決を目指す。 ・ 自らの健康を考えるだけでなく、社会全体の取り組みを理解することを目指す。 			
後	10	○飲酒と健康 ○薬物乱用と健康	・ 飲酒の健康問題と対策 ・ 薬物乱用と健康との関わりと問題、防止対策	・ 単元テスト
	11	○精神疾患と健康	・ 精神疾患の特徴 ・ 精神疾患の予防 ・ 精神疾患の回復	・ 単元テスト
	12	○現代の感染症とその予防 ○性感染症・エイズとその予防	・ さまざまな感染症とその問題 ・ 感染症の予防と対策	
	1	○健康に関する意志決定・行動選択	・ 欲求、欲求不満と適応機制	
	2	○事故の原因と発生要因 ○安全な社会の形成	・ 交通安全の現状と要因 ・ 運転者の責任と保障	・ 学年末考查
	3	○交通における安全	・ 法的整備、施設・設備 ・ 車の安全性システム	
後期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの健康を考えるだけでなく、社会全体の取り組みを理解することを目指す。 			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考查、単元テスト、ワークシート、提出物、日常の授業における参加意欲で評価する。 ・ 観点別学習状況の評価の3観点において評価する。 			
評価の観点	【知識・技能】	・ 生涯的な健康や環境と健康について、理解できているか。		40%
	【思・判・表】	・ 学習内容について、将来を見据えて考えることができているか。		40%
	【主体的態度】	・ 自信の健康に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。		20%

教科名	美術		科目名	美術 I	学年	1
教材	教科書	新・高校生の美術 1 [日本文教出版]			単位数	2
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の目標	1) 造形表現の基礎を理解し、自らの制作に生かす能力を高める。					
	2) 豊かな発想をし、意図に合わせて表現する能力を高める。 様々な視点から自他の作品を鑑賞し、見方や感じ方に関する資質・能力を高める。					
	3) 造形表現の意義や面白さを感じ、主体的に取り組むことで、表現活動を生活に役立てる態度を培う。					
学習の進め方	1) 作品制作を通し造形表現の基礎を身につけ、表現方法の幅を広げていきます。					
	2) 多様な発想から、意図に合わせた方法を選択し、制作に取り組みます。 教科書、配付資料、参考作品、他者の作品を鑑賞しながら、表現活動について学びます。					
	3) ワークシートでの振り返りや交流発表を通し、造形表現の意義や面白さを感じ取る態度を培います。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ※工芸科オリエンテーション	3年間の美術や工芸の授業を通して身につける力と、そのための取組を確認します。	道具の管理方法や授業への臨み方を、早く身につけるようにしましょう。
	5	○色の学習/アクリルカラーの扱い方 (A表現デ・絵) p 152~154	準備～片付けまでの絵具の手順を学びます。様々な色の学習を通し、配色や形態、構成の考え方、制作のプロセスを学びます。	色の基本を理解し、実践的な絵具の使い方を学びます。
	6			
	7	○文字をデザインする (A表現デ) (B鑑) p 74~75、p 149	アイディアスケッチの段階で一度鑑賞を行い、生徒同士でデザインを吟味します。 「木の手づくり展」のポスターに使用する文字をデザインします。目的に合わせて、文字の形や色、質感などを考え制作します。 完成作品をもとに鑑賞交流、作品展示を行います。	アイディアスケッチをもとに、意見交流(鑑賞)を行います。 作品についてプレゼンする方法についても意識しながら学びます。 作品完成後にプレゼンテーションを行い、意見交流(鑑賞)を行います。
	8			
9				
前期目標				
後	10	○観ること、描くこと [鉛筆デッサン] (A表現絵) (B鑑) p 132~135	道具の使用方法や姿勢など、デッサンの基礎基本を学びます。(観方と描き方) 観察を通して、対象のとらえ方を学びます。思い込みを排し、客観的な対象の捉え方を身につけます。技術が的確に向上するよう、ワークシートを活用します。	独自の見方に陥らぬよう、客観的な観察の視点を、制作・鑑賞を通して総合的に身につけるように心がけましょう。
	11			
	12	○テーマを元に描く (A表現絵) (B鑑) p 6~55	表現のテーマを設定し、平面作品を制作します。限られた時間の中で、今まで学んできた表現方法を活用し計画的に制作していきます。配色や構図・構成を意図して表現できるよう、多くのエスキースを描きます。鉛筆デッサンを通して身につけた観察・表現の技術も活用します。また、作品の相互鑑賞、作品展示も行います。	何のための表現かを見失わぬよう、表現の主題と意図を大切にしましょう。 作品鑑賞を通して、主題と表現方法の関係を理解するようにしましょう。 テーマ(表したいこと)にふさわしい表現方法(表し方)を選択できるよう、エスキースをたくさん描き、また他者の意見に耳を傾けましょう。
	1			
	2			
3	○陶芸をしよう。(A表現彫) (B鑑)	用途に合わせたデザインで食器、オブジェ等を作る。	陶芸の基礎について学び、用途を意識したデザイン、制作を心掛け、立体作品を仕上げます。	
後期目標				

評価方法	制作過程や提出作品より、授業内容の理解度や技能について評価する。 ワークシートやエスキース、交流発表等により思考・判断・表現の能力について評価する。 授業中の様子や課題の提出状況等により、主体的に取り組んでいるか評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	・造形表現の基礎を理解し、制作に活かしている。	30%
	【思・判・表】	・豊かに発想し、意図に応じた方法を選択して表現している。 ・自分なりの見方、感じ方を持ち、他者の作品からそのよさを感じ取ったり、自分の作品を客観的に捉えたりしている。	40%
	【主体的態度】	・造形表現の意義や面白さを感じ、主体的に取り組んでいる。	30%

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーション I	学年	1 学年
教材	教科書	Power On English Communication I Revised (東京書籍)		単位数	3
	副教材	①英単語ターゲット1200改訂版 ②サンダイヤル高校英語のスタートライン ③Vision Quest 総合英語 4th Edition		履修区分	共通
学習の目標	1 英文法など基礎的な知識を習得し、場面に応じて使用することができる。				
	2 様々なテーマで英文に触れ、内容を要約し、それに対する意見を表明することができる。				
	3 場面を設定し、その中でALTとの意思疎通を積極的に言い、英語力を向上することができる。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。				
	2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。				
	3 ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	オリエンテーション 義務教育段階の復習	教科書、教材およびICT端末を用いた高校での英語学習について	・スタサポアセスメント	
	5	Lesson 1 Japan's New Tourism	外国からの観光客に人気の体験型ツーリズムについてのALTの話	・ワーク提出	
	6	Lesson 2 Light from Creatures	光る生き物が光る理由やその光が医療研究に利用されていることに関する生徒による発表	・章末テスト	
	7	Lesson 3 One Small Goal at a Time	米国の大リーグで活躍する吉田正尚選手についての新聞記事		
	8	Lesson 4 Miniature Life	ミニチュア写真家、見立て作家である田中達也さんの紹介とインタビューの雑誌記事	・ワーク提出	
	9	Lesson 5 Banana Paper	バナナペーパーがザンビアの村の人々の暮らしに与えた変化と、日本の伝統技術の貢献についてのALTによる講義	・前期期末考査	
	前期目標 ・自ら学ぶ方法を模索し、それを実行する。 ・英文の理解を深めるため、語彙力と文法力を育成する。 ・身近な話題を通じて、自らの意見を発信する力をつける。				
	後	10	Lesson 6 Patterns in Human Behavior	人間の興味深い行動パターンに関する実験の手順や結果を解説する雑誌記事	・スタサポアセスメント
		11	Lesson 7 No Plastic or No Future	プラスチックごみによる海洋汚染についての論説文	・章末テスト
12		Lesson 8 Oh My Cod!	フィッシュ・アンド・チップスの起源や歴史、食料資源についてのイギリス人留学生による発表		
1		Lesson 9 Is Esports a Real Sport?	世界中の若者の間で人気が出てきているeスポーツの実況中継	・単語テスト	
2		Lesson 10 Never Too Late to Learn and Relearn	デザイナー、アーティストの篠原ともえさんと彼女がデザインしたエゾ鹿革の着物についての雑誌記事	・学年末考査	
3		Optional Reading The Corgi and the Queen	イギリス王室のエリザベス2世と、王女時代から女王時代を通じて共に歩んだ愛犬のコーギーをめぐる物語		
後期目標 ・継続的な英語学習を行い、検定の合格を目指す。 ・初見の英文の理解を促すため、教科書のテーマに関係するものを多く読む。 ・時事問題、社会問題について自らの意見を発信する力をつける。					

評価方法	・授業内での積極性、定期考査・章末テスト、提出状況等を総合的に評価します。 また、ペアワークやグループワークに積極的に臨みましょう。 ・英語科の観点別学習状況の評価を基本として評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	英文法などの知識を理解し、身に付けるとともに、聞いたり読んだりして理解できる。	30%
	【思・判・表】	情報を正確に読み取り、考えを要約し、表現することができる。	30%
	【主体的態度】	積極的な態度で言語活動や読解に取り組み、英語力の向上に努めている。	40%

教科名	情報	科目名	情報 I	学年	1
教材	教科書	情報 I 図解と実習 (日本文教出版)		単位数	2
	副教材	・情報 I 図解と実習サブノート (日本文教出版)		履修区分	共通
学習の目標	1 情報に関する科学的な見方や考え方を生かし、情報モラルを踏まえて思考を深め、適切に判断し、表現する。				
	2 情報の基礎的・基本的技能、知識を身につけ、それらの意義や役割を理解する。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容をもとに、実習を通してプログラミングの技能を身につける。				
	2 後期は教科書の内容をもとに、実習を通してワード、エクセルの技能を身につける。				
	3 情報化が社会に及ぼす影響等について学び、随時単元テストを行う。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション 1章：情報社会とわたしたち	・情報モラル ・情報社会を支える法律	情報モラルに関して、年間を通して課題を出す。
	5	2章：コミュニケーションと情報デザイン	・メディアとコミュニケーション ・情報デザイン	ワード・タイピングについては年間の授業を通して学ぶ
	6		・情報のデジタル化 ・コンピュータの仕組み	
	7	3章：コンピュータとプログラミング	・アルゴリズムとプログラミング	
	8		・プログラミング	
	9			
前期目標				
後	10		・モデル化とシミュレーション	
	11	第4章：情報通信ネットワークとデータ活用	・情報通信ネットワーク	
	12		・情報システムとデータベース	
	1		・モデル化とシミュレーション	
	2		・情報システムとデータベース ・ワード、エクセル	
	3			
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストの成績, 日常の授業への参加態度等で評価する。 ・随時技能 (ワード、パワーポイント、エクセル、タイピング) テストを行う。 		
評価の観点	【知識・技能】	情報モラル及び情報技術の意義や役割について理解できるか。	50 %
	【思考力・判断力・表現力】	情報モラル及び情報技術の知識を用いて、適切な運用ができる。	25 %
	【主体的に学習に取り組む態度】	日常の問題を発見・解決に向けた情報技術の取得、活用ができる。	25 %

教科名	工業	科目名	工業技術基礎	学年	1 学年
教材	教科書	工業技術基礎（実教出版）		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 制作に関する基礎的技術を実習によって体験し、工具等の使用方法を習得する。				
	2 制作活動を振り返り、自己の能力や他者の工夫を理解する。				
	3 広い視野と倫理観を持って木工の意義や役割を理解し、木工への興味・関心を高める。				
学習の進め方	1 実習や座学をとおして、木工具の成り立ちや使用法、制作の基礎について学びます。				
	2 ワークシートの活用や鑑賞活動によって、自己や他者の制作について理解を深めます。				
	3 墨付け・鋸引き・柄加工・組み継ぎを制作を通して技術を習得します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本校で使用する工具について ・工芸棟の使用法について ・棧積み ・止血について 	<ul style="list-style-type: none"> ・工具の配布時並びに使用初めに学習を行う。 ・刃物を使用する段階で基礎的な止血を含め安全指導を行う。
	5	○墨付け、墨回しについて ○スコヤ・差し金・罫引き鋸の使用法	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な墨付け、墨回しの習得 ・スコヤ・差し金・罫引き・鋸の使用法について 	
	6			
	7	○鑿の仕立て	<ul style="list-style-type: none"> ・鑿について ・鑿の仕立て ・鑿の研ぎ 	
	8	○研ぎについて ○鉋の仕立て	<ul style="list-style-type: none"> ・鉋について ・鉋台の調整方法 ・鉋身・裏金の研ぎ方の習得 ・鉋の使用法について 	
	9	○組みの制作1	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ほぞ組みについて 	
前期目標				
後	10	○組みの制作1	<ul style="list-style-type: none"> ・表面を鉋で仕上げる 	
	11			・組み1の提出
	12	○組みの制作2、道具の手入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・組み手を用いた箱の加工 ・板接ぎの方法 	
	1		<ul style="list-style-type: none"> ・今までの基礎・基本を振り返りながら制作する 	
	2			
	3			・組み2の提出
後期目標				

評価方法	・課題提出状況、課題に対する技術力、授業への意欲・態度等により総合的に評価します。			
評価の観点	【知識・技能】	工具の成り立ちや使用法・保管法を正しく理解し、安全に使用することができたか。	40%	
	【思考・判断・表現】	自己や他者の制作を振り返り、成果や課題を理解することができたか。	30%	
	【主体的に学ぶ態度】	工具の使用法に意欲を持って積極的な取り組みができているか。	30%	

教科名	工芸	科目名	図法・製図 I	学年	1学年
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 製図の基礎となる平面図法、立体図法作図の基本を身につける。				
	2 形態と図面との関係を正確に理解し、図面を読図する能力を身につける。				
	3 JIS規格を基にした工業製図の基礎技能と構成力を身につける。				
学習の進め方	1 製図に用いる道具の使用法を学び、基礎となる平面図法、立体図法を作図します。				
	2 練習課題に基づいて、規格と図法を学び、図面を読図、作成します。				
	3 製図器やドラフターなどの適切な使用方法を学び、図面構成の力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション	・年間指導計画、学習の心構え、評価方法について	
	5	○製図について	・製図の目的や道具の名前、使用方法について	製図道具の基本的な使い方を通し、平面図法の作図をしていきます。
		○平面図法	・平面図法の作図 ・直線に関する図法	
	6	○製図文字	・製図文字について	製図で使用する文字練習をします。 ファイル提出
		○平面図法	・円に関する図法 ・接触角に関する図法	
	7	○立体図法	・曲線に関する図法 ・投影図の種類 ・第三角法	後期に向けて投影図の種類や第三角法について学びます。
8	○ドラフター ○製図練習①	・ドラフターの機能 ・ドラフターの使い方		
9	第三角法による製図課題 ・中心線 ・破線	・前期まとめ	ファイル提出	
前期目標				
後	10	・表題欄の記入 ・寸法の記入	・図面枠の書き方 ・表題欄の書き方、記入の仕方 ・第三角法、寸法線、寸法値、引出し線	ドラフターを使用し、基礎基本を学習し、立体模型を使用して図面を作成します。
	11		既製品の作図課題 ・JIS規格を基にした作図仕様 ・線の種類と寸法等の記入	
	12	○製図練習② ・組立図 ・部品図		実際に寸法を計測し、図面作成をする。
	1	・卒業制作発表鑑賞	・作品鑑賞	学んできた知識を理解し、卒業制作作品を鑑賞し、見方を深める。
	2	○製図練習③ ・組立図 ・部品図		
	3	○鑑賞	・後期まとめ	ファイル提出
後期目標				

評価方法	授業課題やワークシートの提出状況、ワークシートの内容、日常の授業への参加態度、技能等で評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	・製図用具を正しく使用し、作業工程や進度に応じ適切かつ丁寧な作図ができるか。	35%
	【思・判・表】	・図面の役割、作図方法、立体や平面の把握、設計の意図を正確に表すことができるか。 ・作図の等分や比率の把握、J I S規格、平面図法・立体図法の概念を理解しているか。	30%
	【主体的態度】	・製図道具管理や図法の基礎・基本の習得や活用に向けに意欲的に取り組んでいるか。図面を読図し、作者の表現や工夫に触れ、学習に繋げることができるか。	35%

教科名	工芸		科目名	木工制作 I	学年	1 学年
教材	教科書	なし			単位数	4
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の目標	1 日常生活における工芸作品の制作をとおして、工芸への関心を高める。					
	2 基本的な工具の使用法と木工芸における基礎的な知識と技術を身に付ける。					
	3 加工手順や、安全、強度を考慮する力、イメージを単純化する力を身に付ける。					
学習の進め方	1 木工作品の制作をとおして、機械や工具の基本的な使用法を学ぶ。					
	2 木工作品の制作をとおして、素地調整と塗装法について学ぶ。					
	3 生活における工芸の役割や意義について、身近な例を元に学ぶ。					
	4 樹木の生物学的な性質と、素材としての性質について学ぶ。					
	5 高大連携授業等による課題を通して、ものづくりの考え方を培う。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○オリエンテーション ○小型機械を使用した小作品の制作 ・道具や設備の使い方 ・加工、素地調整、塗装	・学習内容の把握 ・墨付、糸のこ盤、ボール盤の操作 ・素地調整、オイルフィニッシュ ・木材の種類、繊維方向とその作品の仕上がりとの関係性についての学習 ・高大連携による講義（5月中旬） ・小刀、彫刻刀の扱いの学習	・簡単な木工作品を通して、墨付けから完成までの工程及び基礎的な工具の扱い方を学ぶ。 高大連携授業ではおもちゃについての講義を受け、宿泊研修での学びにつなげる。 ・樹木の特性、木材の構造などについて工芸と結びつけて考える。 ・加工と強度の関係について制作を通して学習する。 素地調整に頼らず切断する技術をつける。 ・構想から完成までの作品制作の手順に必要な思考力を養う、制作する上で必要な思考力を高める。 ・知識が身に付いているか確認する。	
	5				○おもちゃづくりの考え方
	6	○森林探訪	・座学により素材となる樹木について理解を深めます。 ・北大研究林での演習を通して、樹木や木材への理解を深めます。		
	7	○動物パズル制作 ・構想（エスキース） ・加工 ・素地調整	・糸のこ盤による切り出しの習熟 ・モチーフの単純化、省略化 ・接着手順、加工と基準面の関係		
	8	・塗装 ・鑑賞	※森林探訪に係わる座学と実技を並行して行う。		
9					
前期目標					
後	10	○カトラリー制作 スプーン制作 ・デザイン ・製材、加工 ・素地調整、塗装 ・レポート	・座学により接着剤や緊結材、塗装、樹種について学習します。 ・「工芸」の意義について理解し、生活における役割について学びます。 ・機能と形の関係の学習 ・安全性に配慮したデザイン決定	・異素材について学び工芸への理解を深める。 ・各自で必要な材料を選択する。 ・無駄なく強度・加工工程を考慮して木取りする。 ・作業内容に応じて鋸、糸鋸、鑿、小刀、彫刻刀の使い分けする力を身につける。 ・素地の状況を判断し、適切な番数を選択して素地調整する。 ・締切を意識し、逆算して作業をするよう心掛ける。 ・卒業制作作品を鑑賞し、作品のよさや美しさに触れ、見方を深める。	
	11				
	12				
	1	○卒業制作発表作品鑑賞	・作品鑑賞 ・3年生の卒業制作の過程を知り自身の制作に結びつけて考える。		
	2	○ラトル制作	・「工芸」の意義について理解し、生活における役割について学びます。 ・機能と形の関係の学習 ・安全性に配慮したデザイン決定		
3	○1年間のまとめ				
後期目標					

評価方法	提出された作品の状況、課題に対する技術力、デザイン力、授業への意欲・態度等により総合的に評価します。（変更になる場合があります。）		
評価の観点	【知識・技能】	作業工程に応じ、安全確認を含め道具を適切に使用した加工ができるか。	35%
	【思・判・表】	加工法や材料について理解を深め、課題に応じて発想豊かに美しい形を作り出せるか。	35%
	【主体的に学習に取り組む態度】	学習課題を理解し、木工作品のよさや美しさ、加工法について考えを深め、積極的かつ丁寧に取り組み、素材や工芸への関心を高められるか。	30%